

井筒屋だより

第四十六号
令和六年
八月号

井筒屋に古書販売コーナー

掘り出し物を探し出そう！

井筒屋一階に古書販売コーナーが設置されました。これは、水戸のとりや書店の協力によって実現したもので、主に茨城の歴史や自然に関する本や小説、市町村が刊行した書籍などで、昭和から平成の中ごろ

までに出版されたものを中心に販売しています。特にお勧めなのは、民話

各自自治体が出版した地域の民話集だけでなく、茨城新聞社が県内各地で収集したものや、郷土史の研究者が編集したものなど、さまざまな民話の本があります。じっくりと読み比べると、同じ話も伝わる場所によって中身が違ったり、といったことも発見できるかもしれません。また、友部町、内原町、瓜連町など、合併前に編集された自治体の歴史本も、何点か取り扱っています。今となっては貴重な郷土資料といえます。



水戸の御老公が来館！

7月6日、水戸葵社中の黄門様と八兵衛さんが井筒屋に来館。水戸も笠間も、観光都市であることから、お互いに交流を深めていこうと意気投合しました。

古書なのですべてが点もの。ほかの書店やネット販売では手に入らないものが中心。もしかしたら二度と手にとることが出来ない貴重品や掘り出し物に出合うかもしれません。ぜひ、お出かけください。

7月、8月のイベント

サクソフォンとピアノによるコンサート Saxophone & Piano Concert

日時：8月31日(土)午後5時(開場4時30分)

出演：穴戸陽子(サクソ)

小林萌里(ピアノ)

ソプラノからバリトンまで4種類のサクソフォンを使って、南米の曲を中心にお届けします。

入場料：3000円(予約) 3500円(当日)

1500円(高校生以下)



第3回 民話がたり ～ひとつきいてくだされ～

日時：9月15日(日)午前11時～11時30分

出演：笠間の民話を語る会

井筒屋の囲炉裏のあるカフェコーナーにて、笠間の民話を語る会の会員さんによる民話語り。

入場料：無料

(事前にお申し込みください)



かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時～午後9時 月曜日休館(月曜日が祝日のときは火曜日が休館となります)

～このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています～



歴史こらむ

仏ノ山峠の朝日堂、夕日堂

夏にふさわしく、仏ノ山峠の話をお届けしたい。

※

笠間と栃木県の茂木の間にある峠は、昔は大変寂しいところだった。

その近くに、ある男が娘と二人で暮らしていた。男は腕のいい猟師だったが、いつのころからか獲物が減り、暮らしはどんどん貧しくなっていた。

そこで男は、ふとした気の迷いから、峠を通る旅人を襲い、金品を巻き上げるようになってしまった。娘はこれを恥じ、悲しみ、やめてほしいと男に何度も頼んだが、聞き入れてくれ

なかった。

そんなある日、男が峠で身を隠していると、笠を深くかぶった旅人が通りかかった。男は鉄砲を放ち、旅人を殺してしまった。そして、その顔を確認めたところ、何と、その旅人は娘だった……。男は青ざめ、嘆き、悲しんだ。娘が男に盗みをやめてもらうためにとった決死の行動だったのだ。

それから、男は足を洗い、自分が手につけた旅人と娘の霊をなぐさめるために、東に朝日堂、西に夕日堂を建て、明け方は朝日堂で、夕方は夕日堂で念仏をとなくて暮らした。

※

この話を、夏休みに仏ノ山峠を通るたびに聞かされた。今も、朝日堂、夕日堂の近くを通るときは、娘のために手を合わせる気持ちになる。

(雄)



今回は台湾東部沖地震チャリティも兼ね、様々な企画で募金を集め、主催のかさまち者(写真右)より、台湾観光代表処の張顧問にチャリティ募金の目録が渡されました。



門フェス、2日間で【井筒屋ニュース】5000人が来場

台湾屋台や市内の飲食店のブース、安達勇人さんたちのライブ、子ども広場などで賑わいました。チャリティにもご協力いただき、ありがとうございました。



校外学習で井筒屋に

大成女子高校の2年生32名が、キャリアデザインセンターの校外学習で井筒屋を見学。施設のホスピタリティの取り組みを学ばれました。



【後記】

井筒屋の古書販売コーナーを眺めていると、古本に関するいろいろな思い出がよみがえります。

その一つ。学生のころ住んでいた街の古本屋で買った文庫本の最後のページに「父が好きだったこの小説、とても読みごたえがあつて感動。父の形見の万年筆でこれを書いた。昭和38年3月、鴨川のほとりにて」という書き込みがありました。

小説を味わうだけでなく、本を通してこれを書き込んだ人、そしてその父親と、時空を超えてつながったような気がして、感激しました。古本には、そんな出会いもあるものです。

みなさんもぜひ、井筒屋で古書を手に取ってください。(雄)